

Global News Agency の日本関連記事に見る受け手側の Cognitive Environment に対する配慮---Internet 時代の英語ライティング教育に向けて

内野泰子 (早稲田大学)

I. はじめに---本稿の目的

インターネットの目覚ましい普及に伴い、最近では、大学、高校のみならず、中学においてさえも英語ライティング教育の一環として、世界中の audience に向けて学校やクラス、地域などを紹介する web page を作成したり、e-mail を用いて海外の未知の学生と交信したりするコミュニケーション活動が積極的に取り入れられるようになってきている。インターネットを通じて未知の、時として不特定多数の global audience に向けて英語で発信するにあたっては、writer と大きく乖離しているかもしれない audience 側の事前知識、経験、興味、感覚(Sperber and Wilson はこれらを “cognitive environment” という表現で総括している)⁽¹⁾などに十分考慮して、writer 側が意図するところをできるだけ正確に伝えることができるように方向づけていく指導法が教師の側にも求められているはずである。本稿では、global audience に対する英語での情報配信を専門とする global news agency が多種多様な知識、経験、興味、感覚などを持つ audience に対してニュース記事（特に日本関連のもの）を作成するうえでどのような配慮を示しているのかを分析し、そうした記事をインターネット時代の英語ライティング教育に役立てる方法を考察する。

II. わが国の英語ライティング教育における audience の変遷と問題点

インターネットがまだ一般に普及していなかった 1983 年当時、Hughey, Wormuth, Hartfiel & Jacob⁽²⁾は英語を第 2 言語とする ESL 環境の英語学習者へのライティング指導に関して、対象とする audience を “oneself” → “others, present and known to the writer” → “others, perhaps more distant, yet known to the writer” → “strangers removed in time and distance, abstract, general, and unknown to the writers” というように段階的に変移させていき、audience が知っていると思われること、知らないと思われること、“universal” とと思われること、“cultural specific” とと思われることを学習者が自ら推測する能力を徐々に育てていけるよう指導することが重要と訴えた。こうした方法は Flower&Hayes(1981)⁽³⁾や Bereiter and Scardamalia(1987)⁽⁴⁾が示した cognition 重視のライティング・プロセス・モデル、また、Swales(1990)⁽⁵⁾がその重要性を唱えた “discourse community” (共通の goal を持ち、そのジャンルの discourse に対しては共通の expectation を有している audience) の概念にも合致し、native speakers のライティング・クラスや ESL クラスでは、[自分向けに diary や journal を作成する] → [当該トピックについて多くの知識や経験を共有しているクラスメイトを対象にライティング活動を行い、peer reading を通じてコメントを交換する] → [当該トピックについてある程度の知識を共有すると想定され

る読者をもつ地元紙などに寄稿する]→[一般向け刊行物や広域で読まれている新聞などに寄稿する]といった順序のライティング指導が広く実践されてきた。

ただし、米英のような ESL 環境とは異なり、英語を外国語とする EFL 環境では Hughey, et al が奨励したような第3、第4段階の audience を対象に学習者が英語で発信する機会を得るのはこれまでなかなか難しく、学習者が英語で書いた作文の実際の audience は結局、教師(時として海外からの ALT)やクラスメイトあるいはせいぜい海外のペンパル程度で終わってしまう場合が多かった。日本でも、第3、第4段階の audience に向けた実践的ライティング活動を英語クラスで行うことはごく最近まで非常に限られていた。また、audience の背景知識レベルなどに応じて効果的に書き分ける指導を英語クラスで行う必要性に対する認識自体も教師、学習者ともに希薄だったのではないかと思われる。実際に、平成6年度から平成14年度まで実施の現行の高等学校学習指導要領(6)のライティング・クラスに関する部分には、ライティング活動における audience の重要性や分類などに関する指摘は全くなく、「目的に応じて適切に書けるように指導するものとする」と大雑把に記されているのみである。

しかし、この数年来のインターネットの急速な発達により事態は大きく変化し、EFL 環境のライティング・クラスでもネット上で global audience を容易に得ることができるようになった。すなわち、web site, discussion board, live chat, videoconference など、様々な形態で、中学レベルの初級の学習者でさえ、第4段階の、それも不特定多数の global audience に向けて英語で発信する機会を、ESL 環境と同様に、簡単に得られるようになったのである。こうした技術革新や実践的英語コミュニケーション活動重視の文部省の方針を反映して、平成15年より実施される新学習指導要領(7)には、英語ライティング・クラスの言語活動内容について、「自分が伝えようとする内容を整理して、場面や目的に応じて、読み手に理解されるように書く」と記された。すなわち、初めて audience の重要性が学習指導要領に明言されたのである。また、そうした言語使用場面の例として、下記のような audience の分類も同要領に初めて明示された。

- (ア) 個人的なコミュニケーションの場面：電話、買い物、パーティー、家庭、学校、レストラン、病院、インタビュー、手紙、電子メール
- (イ) グループにおけるコミュニケーションの場面：レシテーション、スピーチ、ロール・プレイ、ディスカッション、ディベート
- (ウ) 多くの人を対象にしたコミュニケーションの場面：本、新聞、雑誌、広告、ポスター、ラジオ、テレビ、映画、情報通信ネットワークなど
- (エ) 創作的なコミュニケーションの場面：朗読、スキット、劇、校内放送の番組、ビデオ、作文など

ただし、(ウ) のようなコミュニケーション場面を与えられた場合に、「読み手の理解

を得られる」ような英文を書くとはどのようなことを意味するのか、また、そのために具体的にはどのような指導方法をとったら効果的なのかについての指針は学習指導要領には示されていない。長尾(2001)(7)は、「わかるということ (=理解) にはいくつかのレベルがある。第一のレベルは言葉の範囲内で理解することであり、第二のレベルは、文が述べている対象世界との関係で理解することであり、さらには第三のレベルとして、自分の知識、経験、感覚に照らして理解するというレベルを設定することが必要であろう」と述べている。(ウ) のような場面で、海外の未知の知識、経験などを大きく異にする audience の「理解を得られる」ような実践的コミュニケーション活動を行おうとする場合には、この中の第3のレベルでの audience が理解を目指して英文を書くスキルを育てていく必要があると考えるが、新学習指導要領の実施に向けて日本の英語教育の専門家たちから提言されている下記のような指導方法は、ライティング活動に限られた時間しかあてることができない日本の英語教育事情にあっては、効率性や明確性を欠くものが多いように思われる。インターネット教育のハード面ともいえるオンライン環境の設定や運営、カリキュラム作成などについては日本の英語教育界でも多大な議論が行われているが、こうしたコミュニケーション場面では実際にどのような英文を模範としたらよいのかといった具体的で系統立った提言はほとんど見られず、教師が模範を示すより、communicative language teaching の原則に忠実に則って、学生・生徒が実際的なコミュニケーション経験の中で自律的に audience の cognitive environment への配慮能力を身に付けて行くことの重要性を強調する意見が主流を占めている。

「国際化の中、発信型の英語教育が求められるとすれば、自由英作文は最も望まれるものであり……自由英作文で想定する読み手は不特定多数の読者である。……自由英作文の読者としては、主題に関する知識が自分よりも幾分欠如した未知の人間、と想定して書くといいたいだろう」(谷口、1998) (8)……(谷口氏のいう「幾分」を生徒・学生に自律的に推測させるのは難しいのではないかと考える)

「(文化紹介文…風呂敷について…日本独特の品物の説明では、読み手がその品物を見たことがないことも考慮に入れる(読み手のことを考える) 必要があることを指摘する。発信型のコミュニケーションを目指す上で日本のことを適切に紹介できるよう、文化、歴史、伝統などについて、英語で学習しておくことも必要であろう」(新里、2000) (9)

…(新里氏の提言では、どのような資料に基づき、そうした事柄を英語で学習したらよいのかを示されていない)

「海外文通に使う手紙などでは、不明な箇所があってもそのままにして、相手が返事の中で説明を求めてくるのに任せる方が、コミュニケーションとしてライティングをとらえる立場からはむしろ望ましいのではあるまいか」(沖原、1994) (10)

---(沖原氏の提言は *communicative language teaching* の原則にのっとり、教師はあくまでも言語習得の *facilitator* にすぎないとする立場からのものと思われる)

III. ニュース・ライティングにおける *audience* への配慮

Audience の *cognitive environment* に対し配慮する能力を育成するには学習者自身の試行錯誤による自律的な習得が中心であるべきことは確かであるし、また、不特定多数の未知の *audience* が必要とする情報を教師側が量・質ともに明確に示すことも不可能であろう。しかし、インターネットの普及により新たに対象とすることができるようになった *audience* とのコミュニケーションの機会をより効果的なものにするためには、教師側が *global audience* の知識、経験、興味などにうまく配慮したプロの英文例を系統的・具体的に分析し、補助的手段として学習者に示したり、そうした英文例を学習者自らに分析させて *audience* 側の事前知識などへの配慮についての感覚を磨くよう指導することも必要であると考えられる。世界中の *audience* に向けて日々ニュースを配信している Reuters, AP, AFP などの *global news agency* は、まさに *global audience* に向けた英語発信のプロであるから、彼らが日本関連のニュースを世界中に配信するにあたって具体的にどのようなコミュニケーション法を講じているのかを主に日本国内の *audience* を対象に発信している英語ニュース・メディアと比較分析してみることは、こうした指導を行ううえで多いに役立つものと思われる。Reuters は金融情報サービスの利用者も含め現在世界中に 62 万 7,000 のユーザー（企業ならびに個人）を抱えており、また、AP も米国内の新聞社 1,700 ならびにラジオ・テレビ局 5,000 に加えて世界 121 カ国 8,500 の新聞社・ラジオ局・テレビ局に配信を行っており読者は 10 億人にも達するという、いずれもまさに *global news agency* であるが、分析の比較対照とする日本発行の英字新聞の *audience* はほとんどが日本国内在住者 (*domestic audience*) であるため、同一トピックの記事を比較することによって、*global / domestic* の 2 種類の *audience* に応じた書分けの仕方がはっきり浮かびあがってくるはずである。

そうした記事の比較分析を行う前に、ニュース・ライティングのテキストブックでは、*audience* の *cognitive environment* に対する配慮に関してどのようなことが言われているか調べてみると、次のような記述が見つかった。

Robert Gunning “The Techniques for Clear Writing” (11)

- o Tie in with your reader’s experience.
- o Use terms your reader can picture.

Melvin Mencher “The Writer’s Art” (12)

- o The words and phrases the journalist select must be put into a setting, into sentences and paragraphs that make sense to readers. Proper words in proper places, is the guide.
- o Details should be relevant to the story’s theme or mood or they waste space and divert the reader.

Spencer Crump “Writing the Balance of the Story” (13)

- o Write for the reader.---- Reporters write, of course, not for the isolated knowledgeable reader but for the bulk of the subscribers.
- o Most readers, even though they are educated, have little knowledge of numerous fields of technical subjects. The reporter must serve as “middleman” between the technician and the reader to put information into meaningful words.----

本稿では、上記のようなニュース・ライティングにおける基本原則を踏まえて、global news agencyから配信されglobal audience 向けの新聞(the International Herald Tribune など) や online news site (CNN.com, BBC Online など) に掲載された日本関連の記事の中でこうした原則が具体的にどのように反映されているのかを下記の諸点を中心に分析し、ほぼ同日に国内読者向けに日本発行の英字新聞に掲載された同じトピックの記事と比較した。

- o global audience が当該の話題に関する事前知識を僅かしか持たずに読み始めなくてはならない lead 部分を分かりやすくし、記事の焦点を明確に伝えるためにどのような工夫がなされているか?
- o(専門家ではない)一般の global audience にとってなじみが薄いと想定される語、表現、事物、概念などをどのように扱っているのか?
- o global audience の事前知識、経験、興味、感覚などとうまくつなげるためにどのように配慮しているのか?
- o global audience がイメージ(“picture”)しやすいと思われる表現をどのように使用しているのか?
- o global audience に分かりやすくするために detail を省き、情報を希薄化している箇所はあるか。

なお、ここでの分析対象は、summary lead に導かれた straight news のみとした。

IV. 記事実例分析

1. 事例1 ---台風11号関連

(記事A) **Japan hit by typhoon** (Aug. 21, 2001)

(BBC Online News 掲載された AP 配信の global audience 向けの記事)

A typhoon has hit Japan leaving at least two people dead and causing widespread disruption to coastal areas. ①

Winds of up to 125 km/h (79 mph) forced evacuation warnings for 7,000 people living in seafront homes on the main island of Honshu②, and grounded a number of domestic and international flights③.

Typhoon Pabuk ④ made landfall on Tuesday evening local time (1000GMT)⑤ at the town of Kushimoto in Wakayama prefecture, about 450 km (279) miles southwest of Tokyo⑥.

The storm is expected to reach the Tokyo region on Wednesday morning, the Meteorological Agency said, though winds were dying down overnight.

Pabuk---a Laotian word for a large, freshwater fish⑦---was moving northeast at about 10 km/h (6mph)⑧ causing heavy rain, violent winds and high tides. It was downgraded to a tropical storm after winds slowed to about 108 km/h (67 mph)⑨. Typhoons are defined as having minimum surface winds of at least 118 km/h (74 mph)⑩. (中略)

In southwestern Mie state⑪ a 28-year-old railway worker ⑫ was electrocuted while trying to clear branches that had fallen onto an overhead train cable.

"He was sent to nearby hospital, but died later," said a spokesman for Kinki Nippon Railway.

In the central state of Aichi, a 66-year-old pottery factory worker⑬ died when he fell from the roof of the building when he tried to clear clogged rain gutters. (中略)

The Universal Studios theme park in Osaka⑭ was forced to close, some rail and ferry services were suspended and there were delays to bullet train services between Tokyo and Osaka⑮.

The storm has also threatened Saturday's launch of Japan's new next-generation H-2A rocket⑯.

A replacement part of a faulty valve must be flown to Tanegashima from Honshu⑰, but flights have been cancelled said officials at the National Space Agency of Japan.

(記事Aの中で audience への配慮が見られる下線部分の分析 / 記事Bとの比較)

① 見出し部分、リード部分ともに、日本についての背景知識が乏しい global audience にとってなじみのない地名や表現は全く含まれていない。(これに対し、domestic audience を対象とした記事Bでは、副見出しに Wakayama Prefecture という global audience には馴染みのない固有名詞が、また、リード部分に Typhoon No.11 という日本独特の台風を名称ではなく番号で呼ぶ表現が見られる。)

② Honshu という global audience に馴染みのない地名については、the main island of

Honshu という表現で説明を加えている。

- ③ 海外の audience が関心を持つであろう飛行機の国際線 (international flights) への影響について言及している。(記事 B では flights のみの表現で国際線については明示されていない。また、主に国内の transportation の被害を言及している。)
- ④ 国際的慣行に則って Typhoon Pabuk と名称で示しており、⑦ではその意味も説明している。(記事 B では日本式にのっとり一貫して Typhoon No.11 とされている。)
- ⑤ 時間については現地時間は詳細を示さず、GMT で詳述している。
- ⑥ Kushimoto, Wakayama といった global audience になじみのない地名については、audience になじみがあるはずの Tokyo からの距離と方角で所在地を推測しやすくしている。また、距離については km と mile を併記し、多様な audience に分かりやすくしている。⑧、⑨、⑩にも同様の処理が見られる。(記事 B では、Tokai, Fukushima, Hokkaido などの地名に全く説明が加えられていない。)
- ⑩ global audience の中には地域によっては typhoon の定義になじみのない人々もいるので、定義が示されている。(記事 B ではこうした説明は見られない。)
- ⑪ 三重県を説明するのに、日本における大まかな位置 “southwestern” を付し、global audience がその所在地をイメージしやすくしている。また、「県」は正式には “prefecture” だが、ここでは “state” という表現が使われている。その方がわかりやすい audience もいるということであろう。⑬の愛知県についても central state という同様の処理が見られる。(記事 B では県名についての説明は全くない。)
- ⑫ならびに⑬では、台風で死亡した 2 人について報じているが、global audience にとって関心が低いと思われる固有名詞やポジションは示されていない。同様に関心が低いと思われる死因も概略しか示されていない。(記事 B では死者の氏名、死因などを詳述。)
- ⑭海外の audience も知っているであろう有名施設 “Universal Studios theme park” への影響について言及している。(記事 B ではそうした施設への言及はない。)
- ⑮新幹線は “Shinkansen” でも分かる audience も多いだろうが、より多くの読者にわかるよう “bullet train” の表現の方を用いている。(記事 B では domestic audience ならだれでも知っているはずの “Shinkansen” が用いられている。)
- ⑯日本のロケット打ち上げの影響にも興味を持つ audience が海外にいるとの配慮から言及されたものと思われる。(The Asahi Shimbun では H2-A については別の記事が同日掲載されているため、記事 B では言及されていない。)
- ⑰Tanegashima は記事 A 中、Tokyo, Osaka 以外で唯一説明が施されていない地名である。

(記事 B) Storm kills 2, heads northeast

---The slow-moving typhoon comes ashore in Wakayama Prefecture amid warnings of floods, high seas and landslides. (Aug.22, 2001)

(The Asahi Shimbun 掲載の domestic audience 向けの記事)

Two people died and 14 were injured when Typhoon No.11 lashed southwestern Japan on Tuesday with gale-force winds, heavy rain and rough seas.

Meteorological Agency officials said the typhoon was expected pass through the Tokai region this morning and hit the Tokyo metropolitan area around noon.

The typhoon is then forecast to head toward Fukushima Prefecture and reach Hokkaido, the agency said. (中略)

The typhoon came ashore on Kushimoto, Wakayama Prefecture, just after 7 p.m. Tuesday, becoming the first to reach the Japanese archipelago since September 1999, when Typhoon No.18 Inundated parts of Kumamoto Prefecture, killing 12.

Typhoon No.11 has also proved deadly.

Yasuo Kitamura, 28, an employee of Kinki Railway Co., was killed around 2 p.m. Tuesday when he touched a high-voltage cable on the Iga Line in Mie Prefecture. He was trying to remove a fallen Tree from an overhead cable.

A 66-year-old head of a ceramics factory in Haneda, Aichi Prefecture, fell to his death from the factory's roof as he tried to clean a drainage pipe in preparation for the typhoon. (中略)

The typhoon disrupted transportation in various parts of the country Tuesday.

At least 87 flights were canceled Tuesday.

Japan Railway trains were also out of service, including some Shinkansen services.

2. 実例 2 --- オウム真理教裁判関連記事

(記事 C) **Japanese Attacker Gets Life in Prison** (May 31, 2002)

(The International Herald Tribune 掲載の Reuters 配信の global audience 向け記事)

Tokyo---A former member of the Japanese doomsday cult Aum Shinrikyo① was sentenced to life imprisonment Wednesday for a deadly 1994 sarin gas attack② on a mountain resort③.

Prosecutors④ had requested the death penalty for Noboru Nakamura, 34, on for four incidents⑤, including the June 1994 attack in the central town of Matsumoto⑥, which killed seven people and made more than 600 ill. Aum Shinruikyo carried out its fatal sarin attack on the Tokyo subway in 1995⑦.

(記事 C の中で audience への配慮が見られる下線部分の分析 / 記事 D との比較)

- ① リード部分ではオウム真理教を非常にイメージしやすい表現(doomsday cult)で示している。(記事 D のリード部分ではオウム真理教についての説明は全くない。)
- ② リード部分では中村被告が終身刑を言い渡された 4 つの罪状のうち、主要なものひとつが示されているに過ぎないし、第 2 パラグラフ⑤の部分でも 4 つの罪状があることが示

されているのみで、情報は簡略化されている。(記事 D ではリード部分で 4 つの罪状があることが指摘され、さらに第 3 パラグラフで罪状の詳細が示されている。)

- ③ リード部分では **global audience** になじみのない **Matsumoto** の地名は登場せず、“**mountain resort**” というどのような読者にもイメージが容易にうかぶ表現となっている。

(記事 D では **Matsumoto** という地名は “**Matsumoto, Nagano Prefecture**” という形で説明なしに第 3 パラグラフに突然登場する。)

- ④ 実際には東京高等裁判所での検察側の求刑をさすが、**writer** は **global audience** にとって重要なのはどこの裁判所ということより判決内容と判断し、**detail** を省いたものと思われる。(記事 D では “**the Tokyo District Court**” と明示されている。)
- ⑥ **Matsumoto** が日本の中部に位置することが分かる説明となっている。(記事 D では説明は全くない。)
- ⑦ 世界中に広く報道され、**global audience** の多くも覚えているであろう地下鉄サリン事件について言及し、**audience** の過去の記憶につなげようとしている。(記事 D では地下鉄サリン事件は全く言及されていない。)

(記事 D) **Aum's Nakamura sentenced to life** (May 31, 2001)

(The Asahi Shimbun 掲載の **domestic audience** 向けの記事)

Former Aum Shinrikyo senior member Noboru Nakamura was sentenced to life in prison Wednesday for taking part in four cult-related crimes that left nine people dead.

The Tokyo District Court rejected prosecution requests for the death sentence for Nakamura, 34, saying he played a subordinate role in crimes masterminded by cult founder Chizuo Matsumoto.

Nakamura was convicted of murder for the June 1994 sarin gas attack in Matsumoto, Nagano Prefecture, which killed seven; murder in the torture-killing of an Aum Shinrikyo follower; abduction that led to the slaying of a Tokyo notary; and the illegal construction of a sarin factory. (後略)

3. 国際収支関連記事

(記事 E) **Japan Posts Decline in Surplus as Imports Rise** (May 15, 2001)

(the International Herald Tribune 掲載の AP, Bloomberg 配信の **global audience** 向けの記事)

Tokyo...Japan's current account surplus with the rest of the world ①fell 4.5 percent in the latest fiscal year from the previous year as imports, led by oil, rose faster than exports②, the government③ said Monday.

The current-account surplus...the difference between Japan's income from foreign sources and payments on foreign obligations④...decreased to ¥12.07 trillion (\$98.49 billion)⑤ in the year that ended March 31⑥. the Finance Ministry ⑦said. The current is Japan's broadest measure of trade.
(中略)

The current-account surplus measures trade in goods, services, tourism and investment before adjustment for seasonal factors⑧. (中略)

“Compared with exports, imports are still high,” said Kazuhiko Ogata, a senior economist at HSBC Securities (Japan) Ltd⑨. “Even though Japan's economy is going into a recession, some special factors...such as Japanese companies shifting their production sites overseas⑩...are causing imports not to fall as much.”

A ministry's report released last month showed the volume of goods shipped overseas fell for the third straight month on falling demand in the three major trading regions...Asia, the United States and the European Union⑪.

Manufacturers at home are responding by cutting production, leading to downgrades in the central bank's economic assessments. The government said Friday the economy was “increasingly weakening.” the fourth straight month it has lowered its assessment⑫.

(記事 E の中で audience への配慮が見られる部分の分析 / 記事 F との比較)

- ① リード部分では “with the rest of the world” という表現で、世界中の audience とこの記事内容がかかわりがあることを示唆しているものと思われる。(記事 F のリードではこうした配慮はない。)
- ② リード部分で経常黒字減少の理由まで言及し、日本の経済に詳しくない audience にも記事をフォローしやすくしている。(記事 F のリードでは理由まで言及されていない。)
- ③ リード部分ではデータの出所は “the government” とのみあり、具体的な省名は次のパラグラフ中の⑦の部分で初めて出てくる。(記事 F では “Ministry of Finance” がリード部分で出てくる。)
- ④ 国際収支に詳しくない global audience もいることを想定して、経常収支についての説明が④、⑧の箇所で行われている。(記事 F では経常収支の説明は極めて簡単。)
- ⑤ 円・ドルが併記され、海外の audience にも一目で日本の経常黒字が認識できるようになっている。(記事 F では円表示のみ。)
- ⑦日本の年度は global audience にはなじみがないから、3月31日までであることを明記している。(記事 F では “fiscal 2000” とあるだけで、こうした説明はない。)
- ⑨世界的認知度の高い金融機関の economist の発言を引用することにより、この記事内容の global audience にとっての信頼度が高められているものと思われる。
(記事 F ではこうした引用はない。)

- ⑩ 海外の **audience** にも関心があると推測される背景情報として日本企業の海外への生産のシフトについて言及している。(記事 F ではこうした言及はない。)
- ⑪ 海外主要市場での動向が示されている。(記事 F ではアジア市場についての言及のみ。)
- ⑫ 最後の部分では、日本の経済情勢への理解を深められるよう、政府の景況判断などについての背景補則情報が加えられている。(記事 F ではこうした関連情報はなく、数字の解説のみ。)

(記事 F) **Current account surplus falls again** (May 15, 2001)

(The Asahi Shimbun 掲載の domestic audience 向けの記事)

Japan's current account surplus for fiscal 2000 dropped from the previous year by 4.5 percent to 12.07 trillion yen...the second consecutive year of decline, the Ministry of Finance reported Monday in a preliminary report.

Ministry officials said the drop in the figure, which shows internationally traded commodities and services within the year, was due to the rise in crude oil prices...35.1 percent on the year... which pushed up imports by 16.1 percent.

The report said the nation's merchandise trade surplus also dropped for the second straight year by 16.1 percent to 11.55 trillion yen. (中略)

An area by area breakdown showed Asian imports, mainly textile products, grew 21.1 percent. (中略)

It was helped by 15.5 percent growth in exports to other Asian areas, the report said.

V. 記事実例分析結果のまとめ

上記 3 例の分析結果をまとめると、**global news agency** の日本報道では、不特定多数の “**cognitive environment**” に配慮して、コミュニケーション法に次のような工夫が見られた。

- (1) 当該のトピックに関して **audience** の側にまだ十分な “**cognitive environment**” が確立されていないリード部分では、**audience** になじみのない固有名詞などの使用はできるだけ避ける。
- (2) 日本国内の出来事や日本に関する統計数値などについて報道する場合でも、**global audience** の興味や関心につながるよう、諸外国との関連や世界の中での位置づけといった観点も加えて報じる。
- (3) 一般の **global audience** が記事内容を理解するうえで役に立つと推測される下記のような背景知識や説明を加える。

- o 地名: 日本における大まかな位置、東京など主要都市からの距離・方角、その土地が果たしている機能などを書き加える。
 - o 単位: 度量衡や通貨単位などは現地で使われているもの以外に、 **global audience** にとって理解しやすいものも書き加える。
 - o 日本固有の制度など: 年度などは具体的期間を明示。
- (4) **global audience** が当該のトピックに関連した過去の出来事を知っていると推測される場合には、そうした出来事にも言及して **audience** 側の既存知識とつなぐようにする。
- (5) **global audience** にとって不必要であったり、かえって理解を妨げるのではないかと推測される詳細事項は省き、必要情報のみを簡略化、希薄化して報じる。
- (6) 当該トピックについての専門家や関係者のコメントを引用する場合には、 **global audience** にとっても信頼性の高いと推測される人物のものとする。

また、本稿の分析対象に加えて、その他の 10 程度のトピックに同様の分析を加えた結果、さらに下記のようなコミュニケーション上の工夫も見られた。

- (7) **global audience** にも訴えるような **human element** (**global audience** も共感を覚えるような感動的エピソードなど) を加える。
- (8) **global audience** が日本に関して持っていると推測される固定観念をくつがえすような報じ方をすることによって印象を強める。
- (9) **universal** と推測される **similie** や **metaphor** を盛り込み、 **global audience** に具体的なイメージを与えるようにする。

(例) ハンセン病訴訟関連記事 (the International Herald Tribune 掲載の Washington Post Service 配信記事---May 12-13, 2002 より)

“...Only five years ago, Japan finally repealed a draconian law under which patients were treated like convicts, put to hard labor and often forcibly sterilized and required to have abortions....”

VI. 終わりに---**global news agency** 配信の日本関連記事のライティング教育への活用法

日本の英語ライティング教育の場で新たに発信可能となった **global audience** を対象として、 **audience** に興味を持って読まれ、理解されるような情報を発信していくためには、 **global news agency** のコミュニケーション法から学ぶところが多い。杉本・朝倉(2002)(15)は、「自分のページのカウンターが上がっていくのは学生にとって励みとなった」と記しているが、まさにそうした **web page** 作りには有益な **audience** の **cognitive environment** への配慮法的一端を知ることができよう。本稿の主な分析対象は、災害、裁判、経済の 3 分野の **straight news** に限定したが、教師側がさらに記事の種類(**analysis**, **commentary**, **editorial**, **feature story**, **interview** など)や分野を広げて **global news agency** のコミュニケ

ーション上の工夫を分析し、系統的にまとめていけば、「自分よりやや知識が欠如した相手に対して書く」といった曖昧な指導ではなく、かなり具体的な表現法、コミュニケーション法を学生・生徒に提示できるのではないだろうか。また、同一トピックについて **global audience** 向けに書かれた英文記事と日本国内の **domestic audience** 向けに書かれた英文記事を学生・生徒自身に比較させる活動を **web page** 作成や **e-mail** 交信などに先立つ **pre-writing activity** として組み込む方法をとれば、**global audience** に対するコミュニケーション上の配慮を学生・生徒が自律的に育んでいくことができるのではないだろうか。従来からいくつかの異なる新聞の同一トピック記事を比較する **activity** は英語リーディング・クラスなどで主に論調や立場の違いを識別する **media literacy** の観点から奨励されてきたが(例: Grundy, 1993 (14))、本稿で論じたような観点からの比較検討も有効なのではないかと考える。なお、**global news agency** が日本に関する事柄を説明する場合には、当然当該の事柄に対する **news agency** 自体の価値判断や見解が入りこんでくる。例えば、日本の靖国神社は **global news agency** 配信記事では“**war shrine**”と表現されることが多いが、こうした表現と生徒・学生自体の見解を比較することなどで、**media literacy** の育成にもつながるのではないだろうか。

(参考文献)

- (1) Sperber, D. and Wilson, D. 1986, 1995. *Relevance...Communication and Cognition*. Blackwell
- (2) Hughey, J., Wormuth, D.H., Hartfiel, V.F. and Jacobs, H.L. 1983. *Teaching ESL Writing...Principles and Techniques*, Newbury House Publishing
- (3) Flower, L. and Hayes, J. 1981. A cognitive process theory of writing. *College Composition and Communication* 32
- (4) Scardamalia, M and Bereiter, C. 1987. *Knowledge telling and knowledge transforming in written composition*. *Advances in applied psycholinguistics*. Cambridge University Press
- (5) 高等学校学習指導要領、平成元年(1989)発行、文部省
- (6) 高等学校学習指導要領、平成 11 年(1999)発行、文部省
- (7) 長尾真、2001. 『『わかる』とは何か』 岩波書店
- (8) 谷口賢一郎 1998. 「英語教育改善へのフィロソフィー...21 世紀の国際教育...新指導要領に向けて」大修館書店
- (9) 新里眞男 2000. 「高等学校学習指導要領の展開(改訂)...外国語(英語)科編」明治書店
- (10) 沖原勝昭 1994. 「ライティング指導の新しい方向...英作文添削と評価」英語教育 1994/12
- (11) Itule, B.D. and Anderson D.A. 2000. *News Writing and Reporting for Today's Media*. McGraw-Hill
- (12) Melvin, M. 1977, 1981, 1984. *News Writing and Reporting*. WCB
- (13) Crump, S. 1974. *Fundamentals of Journalism*. McGraw-Hill
- (14) Grundy, P. 1993. *Newspapers (Resource Books for Teachers)*. Oxford University Press
- (15) 杉本卓・朝尾幸次郎 2002. 「インターネットを活かした英語教育」大修館書店